News Release 2026.11.10

NODA レーシングコンサルタンツ株式会社

Juju Information Vol.86

Juju（こと、野田樹潤）
トレーニング先であるオーストリア LRT のオファーで急遽出場
BOSS GP RACING SERIES 2026 最終戦で連続表彰台に！
レース 1、F1 を抑えてポール・トゥ・ウイン レース2、写真判定の結果、超僅差の2位
スーパーフォーミュラ最終戦を前に、実り多い欧州遠征

Juju（こと、野田樹潤。NODA レーシングコンサルタンツ所属）は、11 月 5 日（木）－7 日（土）、フランス PALU RICARD（ポール・リカール 1 周 5.821km）で開催された BOSS GP RACING SERIES 2026 最終ラウンドに出場しました。BOSS：Big Open Single Seaters。 F１や F２と同等性能のハイパワーマシンが混走する欧州の人気シリーズ。

今回のレース出場は、Juju の走りをみたトレーニング先である「LRT（Leidinger Rennsport Technik）/ Red Rose Racing /」（オーストリア）の要請により急遽決定しました。

5 日（木）の公式練習では、いきなり 2 番手タイムよりも 1 秒以上速いトップタイムを記録。2 度目の公式練習でも F1 車両に継ぐ 2 番手タイムで、関係者を驚かせます。雨の中で行われた 6 日（金）の予選は、2 番手タイムの F1 車両を 2 秒以上も速いタイムを叩き出し、ポールポジションを獲得。

同日午後の決勝レース 1 は、後方からの追い上げを抑え、終わってみれば 2 位に 6 秒以上の大差をつけチェッカーを受けて 1 位。翌 7 日（土）のレース 2 は、スタートで 6 番手まで遅れをとったものの怒涛の追い上げ。そして、ファイナルラップまで、トップ車両にテール・ツー・ノーズからサイド・バイ・サイドの息を呑む激しいトップ争いの末、同時にゴール。同着かと思われれましたが、写真判定の結果、1000 分の 45 秒という超僅差で 2 位。



このレースは、BOSS GP シリーズでは初めてポール・リカールのレースカレンダーに掲載された記念すべきレースとなりました。レース経験が浅い LRT のチーム事情や、ストレートが長いポール・リカールで、欧州ではトレーニングなどで乗り慣れているとはいえフォーミュラＧＰ２の車両にトップスピードで劣る「ダラーラ ワールドシリーズ T12」では、劣勢が懸念されました。しかし、Ｊｕｊｕは、それを跳ね返す見事なパフォーマンスでサーキットを沸かせ、スーパーフォーミュラ最終戦に弾みをつける実り多い欧州遠征としました。

安藤ハザマ FORDAYS Kokon XEBEC miki HOUSE TAKARA TOMY AZAPA ProStaff UMC FORTNA BLOCKVALUE HRC SPK TIGER NRA



５日（木）の予選が終わって「やった！！ポールポジション！」と、満面笑みの Juju。この日のコースは、気温が 10 度を下回り、路面温度も低い冬のようなコンディション。「こんな条件で５８０馬力のマシンをコントロールするのは間違いなく挑戦でした。」と Juju。それでも、持ち前の負けじ魂を発揮して果敢にタイムアタック。終盤には、それまでトップタイムをマークする F1 車両に迫るタイムを記録。“もしかしたら・・・”と渾身のアタックを試みた結果は、見事にトップタイムを記録してポールポジションを獲得しました。

そして、午後の決勝レース 1。雨はあがりましたが、路面はまだ濡れた状態です。チームは、レースが始まれば路面は乾いてくると判断して乾燥路面用の溝がないタイヤ（＝スリックタイヤ）を使うことを決定。ポールポジションからのスタートをきめた Juju は、序盤にかけては濡れた路面で緊張しながらの走り。レース中盤からはスリックタイヤでのアドバンテージを活かし、後方から迫る車両を抑えきり、一度もトップを譲ることなくレースをコントロールし 1 位でチャッカーフラッグ。LRT/ Red Rose Racing に BOSS GP 初勝利をもたらしました。Juju は、「この素晴らしい機会をくれたチーム LRT/Red Rose Racing に勝利を祝う感謝の言葉を送ることができ、ほんとうによかったです。」と笑顔で話していました。



翌 7 日（土）のレース 2。レース 1 に続きポールポジションからスタートした Juju ですが、痛恨のミス。一気に 6 番手まで順位を落とします。しかし、ここからが“負けても、負けても諦めない！”という Juju が本領をみせます。

ＧＰ２車両には劣る直線 SPEED にもかかわらず、コーナースピードと巧みなレース展開で、周回ごとに先行車両を追い抜いていきます。そして、中盤 5 周目には、Ｆ１車両に継ぐファステストラップを記録し、遂にトップに追いつき 2 番手に。周回ごとに順位を上げる Juju のアグレッシブな走りに、場内から歓声も。

ファイナルラップまで、テール・ツー・ノーズからサイド・バイ・サイドの息を呑む激しいトップ争いの末、最終コーナーを立ち上がり横並びでフィニッシュラインを通過。場内固唾を呑んで見守る中、同着かと思われましたが、写真判定の結果 1000 分の 45 秒という超僅差で、惜しくも 2 位となりました。

激しいバトルを終えて「LRT/ Red Rose Racing、ZELE Racing などレース関係者の皆様に、この機会を可能にしてくれたことに、そして、応援してくれた皆さんにとても、とても感謝します。」と、感謝の言葉を忘れない Juju でした。

劣勢が予測されたマシンを操り、雨の予選でポールポジションを獲得しポール・トゥ・ウイン。スタートミスを跳ね返す巧みなレース展開で、トップに 0 秒 045 まで迫る追い上げ。BOSS GP 最終戦は、鈴鹿サーキットでのスーパーフォーミュラ最終戦に向けて非常に貴重で、実り多いレースとなりました。

２０２４年、史上最年少、日本人女性初で参戦したスーパーフォーミュラ。2025 年、新たに Triple Tree Racing を発足し臨んだ 2 年目。そして、チーム体制を刷新した 3 年目の今季。期待と注目が高まる 10 日後に迫る鈴鹿サーキットでの最終戦に、ご声援を宜しくお願いします。